

- |       |                                    |       |                           |
|-------|------------------------------------|-------|---------------------------|
| の場 弘行 | 住友金属工業(株)鹿島製鉄所厚板建材部鋼管形鋼技術室         | 赤根 晴雄 | 東洋運搬機(株)技術研究所所長           |
| 光安 拓治 | 新日本製鉄(株)技術開発本部設備技術部製鉄プラントエンジニアリング部 | 荒川 竜男 | 新日本製鉄(株)技術企画部品質企画標準室      |
| 宮城 隆司 | 早稲田大学大学院理工学研究科資源及材料工学専攻南雲研究室       | 井口 忠昭 | (株)不二越技術本部材料開発部           |
| 村井 照幸 | 住友電気工業(株)伊丹研究所無機材料研究部              | 入江 伸一 | 東洋鋼鉄(株)大阪支店               |
| 森 章徳  | 住友金属小倉製鉄所製鋼部製鋼技術室                  | 鷺海 任  | 日本磁力選鉱(株)技術本部部長           |
| 森 透   | 三菱エンジニアリング(株)第 1 技術部化学技術課          | 小幡 晃志 | 川鉄ロックファイバー(株)             |
| 八木 毅  | 早稲田大学大学院理工学研究科資源及材料工学専攻南雲研究室       | 坂本 克己 | 三星スチール(株)                 |
| 山路 常弘 | NKK 日本鋼管(株)京浜製鉄所冷延鋼板部スーパーEコアチーム    | 坂本 広明 | 新日本製鉄(株)第一技術研究所素材第 4 研究科  |
| 山根 兵  | 山梨大学教育学部化学教室                       | 鈴木 正芳 | 防衛大学校理工学研究科研究科学生          |
| 山本 宗平 | 名古屋大学工学研究科材料機能工学科材料機能第 5 講座        | 瀬山 芳昭 | 川崎製鉄(株)鉄鋼技術本部鋼材技術部        |
| 山元 義久 | 東洋紡績(株)AP グループ                     | 長坂 秀也 | 日本鋼管(株)京浜製鉄所溶接管部          |
| 吉川 将寿 | 大阪大学工学部材料物性学科                      | 広野 種生 | 川崎製鉄(株)鉄鋼技術本部ステンレス技術部     |
| 若松 信一 | NKK 福山製鉄所製鋼部                       | 細谷 条治 | (株)淀川製鋼所市川工場表面処理課係長       |
| 渡辺 憲一 | (株)神戸製鋼所加古川製鉄所鋼板開発部薄板開発室           | 堀 正夫  |                           |
|       |                                    | 森田 英臣 | 東洋シャフト(株)技術部              |
|       |                                    | 山口 泰広 | ニダック(株)技術部                |
|       |                                    | 山崎 隆平 | 小野田セメント(株)資源事業部化成成品第二グループ |

外国会員

▶平成 4 年 2 月◀



- Kim, Ki Tae
- Berg, Bertil Carl Axel
- Park, Soo Ho
- Rhee, Yun Ju
- Nam, Jae Bok
- Craven, John W.
- Alvarez, Ignacio Salvador
- Sardemann, Jurgen



- Muller, Jean Louis
- Thomas, Noel G.
- Malayawata Steel Berhad
- HYLSA S.A.DE C.V.
- Res. & Dev. Dept.

死亡退会

御冥福をお祈り申し上げます

藤村 全戒 静岡大学工学部教授



「戦後復興期における日本鉄鋼技術の発展」

(昭和 20 年より 30 年代初頭まで)

発刊に際して画像情報資料(写真, その他)提供お願いについて

本会、戦後技術史調査小委員会では、現在「戦後復興期における日本鉄鋼技術の発展」と題する報告を近々発刊を目標に第 1 次原稿を作成致しました。スケルトンは、下記に記すとおりであります。現在、特に第 1 次合理化計画で建設された設備関係の写真や各種調査団の記念写真等探索中ではありますが中々入手困難で困っております。そこで会員の方々の中で上記の画像情報資料をお持ちで提供いただける方は、下記宛ご連絡いただきたくよろしくお願い致します。なお、本報告書は、本文 200 頁、資料 100 頁にわたる膨大なもので、本年 9 月頃刊行を目標に鋭意編集作業を進めております。鉄鋼技術史の空白を埋める貴重な文献となるものなので、是非ご期待下さい。8 月頃には予約を受け付ける予定です。

なお、戦中の鉄鋼技術については昨年 3 月に「戦前軍用特殊技術の導入と開発」を出版しておりますので御関心の方は御購入をお願い致します。

記

戦後復興期における日本鉄鋼技術の発展 (昭和 20 年より昭和 30 年代初頭まで)

- |                     |                                |
|---------------------|--------------------------------|
| 第一部 日本鉄鋼業の戦後復興の端緒   | 第三章 近代化への門出                    |
| 第一章 生産の再開と鉄鋼業再建の指針  | 第一章 朝鮮動乱の勃発と鉄鋼業                |
| 第二章 賠償問題の変遷         | 第二章 鉄鋼業第一次合理化計画                |
| 第三章 鉄鋼生産回復の足取り      | 第三章 第一次継続合理化計画                 |
| 第四章 経済諸制度の変革        | 第四章 第一次合理化計画(一次継続を含む)を推進した税制措置 |
| 第五章 高炉調査団・平炉調査団の派遣  | 第五章 外国技術の導入と設備機械の輸入            |
| 第二部 鉄鋼業の自立化の努力      | 第六章 第一次合理化計画(一次継続を含む)の実施による効果  |
| 第一章 ドッジ・ラインと鉄鋼業     |                                |
| 第二章 鉄鋼業の自立化方策       |                                |
| 第三章 米国鉄鋼技術者の指導      | 終章                             |
| 第四章 訪米鉄鋼業調査団の派遣     |                                |
| 第五章 産・官・学の共同研究体制の確立 |                                |

<連絡先> (社)日本鉄鋼協会 図書・資料室 渡辺  
〒100 東京都千代田区大手町 2-7-1 日本ビル別館 10 F  
TEL (03)3241-1228 FAX (03)3241-3941